



☆第 63 回統計グラフ全国コンクール
 ☆第 65 次
 教育研究愛知県集会に参加して
 ☆授業のひとコマ

回覧用
 ↓
 学校回覧用

第63回統計グラフ全国コンクール

岡崎勢、入選2点、佳作5点!



☆入選☆

【第2部 小学校3～4年生の部】

山本 愛結（竜美丘小学校4年）・・・いいだら？ ぼくのまちわたしのまち岡崎

【パソコン統計グラフの部 小学生以上】

石橋 菜々子（新香山中学校3年）・・・食の需要と農家の危機



☆佳作☆

【第2部 小学校3～4年生の部】

吉田 嶺介（竜美丘小学校4年）・・・給食だいすき ～もっとすききらいをなくすために～

【第3部 小学校5～6年生の部】

柴田 あみ（竜美丘小学校6年）・・・がんばりたい！英語 しょう来話せたらいいな

【第4部 中学生の部】

水口 奈々（城北中学校3年）・・・できていますか？人生設計

【パソコン統計グラフの部 小学生以上】

井澤 太伸（福岡小学校6年）・・・日本は変わる？18歳選挙権！！

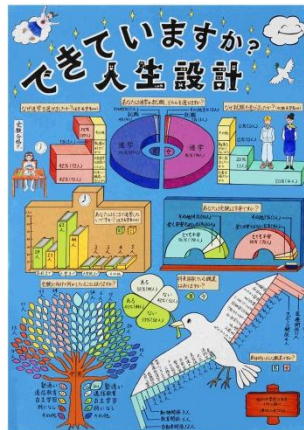
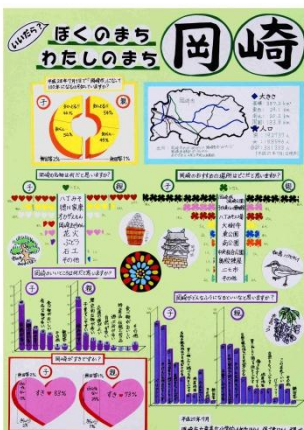
五味原 保（福岡小学校6年）

柴田 淳志（福岡小学校6年）

中山 朱莉（翔南中学校3年）・・・Sign Of Children

おめでとうございます。27年度統計グラフ全国コンクールで、岡崎市の子供たちの作品が入選2点、佳作5点という大活躍でした。

この結果は、市内の多くの児童・生徒の努力、先生方のご指導の賜物です。ありがとうございました！



☆ワンポイント☆
 「統計グラフ全国コンクールの上位入賞作品（他県）を見ると、作品の中に「調べた動機・まとめ・分かったこと」などが書かれている作品が多いようです。来年度の参考にさせていただけたらと思います。

第65次教育研究愛知県集会に参加して

第13分科会の「能力・発達・学習と評価」部会に参加しました。数学科だけではなく、様々な教科の先生方が集まり、「確かな学力を育む手立ての工夫」「伝え合う力の向上を目指した工夫」「進んで学び続ける児童・生徒の育成のための工夫」という3本の柱でレポート発表・討論が行われました。

各教科から出された中で共通していることは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをすること。具体的には、①活動や内容を精選して、授業のねらいを明確にする。②視覚的な手がかりを活用して、学習内容を理解しやすくする。③ペア活動やグループ活動など、全員が考えを共有できる活動の場を設定し、本時の手がかりとなる既習事項を確かめたり、指導内容の定着を図ったりすることが挙げられました。

助言者の先生方からは、グループ活動はそれぞれのクラスの実態によって意図的かランダム編成のどちらが適するか異なるが、グループ活動時の教師の立ち位置、どのような支援が適しているのかを考えなければならないことをご指導いただきました。また、童話「うさぎと亀」の話から、亀は絶対にあの条件では勝てない。だから、亀は水の中で勝負すればいい。すなわち自分の得意な分野で勝負することも児童・生徒たちにとって大切であることも教えていただきました。

数学科で日頃から心がけていることが、実は他教科とも共通しており、それが児童・生徒の成長につながっていることが実感できました。貴重な場を与えていただき、ありがとうございました。

(文責 南中 鋤柄 光治)



「確かな学力の定着」「思考力・判断力・表現力の育成」「学習形態の工夫」「自ら学ぶ力・意欲の育成」という4本の柱で、レポート発表・討論が行われました。

私が印象に残っているのは、多くのレポートでグループ学習の取組が工夫されていたことです。グループ構成を習熟度別にしたり、座席を移動してグループを構成したりしていました。“教え合い”の中にも“学び合い”があるということを知りました。また、教師が教えるだけの授業ではなく、生徒たちがお互いに教え合うことで、教えられる側だけでなく、教える側にも学びがあるということを知りました。

助言者の先生方からは、授業の中でグループ学習を取り入れるタイミングについて、「学びの持続」のため、「学びが止まったとき」に取り入れると良いということを知りました。さらにグループ学習をする前に、生徒一人ひとりが自分の考え方をもち必要があるということを確認され、これからは、生徒たちが主体的に学べるよう、教材研究をしたり、授業を考えたりすることが大切だとご指導いただきました。

今回の経験を生かし、今後も生徒とともに数学のよさを実感できるような授業を研究していきたいと思っております。貴重な場を与えていただき、ありがとうございました。

(文責 矢作中 佐藤 あかね)



授業のひとコマ



© Can Stock Photo

「おおきさくらべ (1) かさくらべ (小学校1年生)」実践

教科書 P78

子供たちは「ながさくらべ」で、2つの長さを直接重ねて比べる方法や、任意単位による間接比較によって比べる方法を学習しました。ここでは、まず、折り曲げれば直接比べることができる、はがきの縦と横の長さ比べをしました。次に、机の幅とドアの幅の長さ比べのように直接比べることが難しいものの長さ比べをしました。直接重ねることができない時はどのように比べるかを考えることで、任意単位による間接比較の必要性に気付くことができました。子供たちは「〇〇のいくつ分」と任意単位による間接比較は、長さを比べる時だけでなく、どちらが長いかを表現するときにも便利であると実感していました。

そこで、「かさくらべ」の学習でも、実際に直接比較と間接比較による操作活動を行うことで、それぞれのよさが分かるように授業を進めることにしました。

㊦の問題(2つの容器の水を比較する問題)では、教師が用意した一方の容器に着色した水を入れ、実際に容器の水を移し替えました。大きな容器から小さな容器に移し替えると水があふれ、逆にするとあふれないことから、移し替えることで大きさを比べることができることを確認しました。子供たちが見た目ですべて予想していたとは違っていただけもあり、興味津々の様子でした。

㊧の問題(3つの容器の水を比較する問題)では、形や色はかなり違うジャンプのボトルを用意しました。子供にとっては、見た目では量を予想することは難しかったようです。しかし、「背が高いから」とか「太いから」といった自分なりの根拠をもとに予想を立てました。そして、㊦の問題のように中身を移し替えて考えることと、別の容器(ビーカー)に水を移し替えて比べることをしました。同じ大きさのビーカーにそれぞれ水を注ぐと、「この容器から入れたビーカーの水の線が、一番上にある」と子供が気付きを発言しました。そこで、ビーカーの中の水の境目の線を指さして比べ、全体で確認しました。



最後に、実際の状態を共有できるように、黒板に絵をかいてまとめました。直接比較の活動では、水がびんからあふれる様子をかき、移し替えることで比べられることを押さえました。任意単位による間接比較の活動ではビーカーに移した後の様子の絵をかき、高さによって比べることができることを押さえました。このようにしたことで、3つ以上の容積を比べる時は、直接移し替えるより、別の容器に置いて比べたほうが便利であることに気付くことができました。

(文責 生平小学校 長江信子)